

本部・各支部共に中止

今年度同窓会開催せず

高 五 原

SGF

発行
青森県立五所川原
工業高等学校同窓会
青森県五所川原市大字湊
字船越192
電話(0173)3513444番
編集
企画 同窓会事務局
編集 (有北斗オフセット)

青森県立五所川原工業高等学校同窓会は、本部並びに各支部の役員会において、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、本年度の同窓会総会及び懇親会の中止を全会一致で決めました。

コロナ禍 会員の安全最優先

四月二十四日本部同窓会前期役員会において同窓会の中止が議決された。

三月中旬、青森県は全国47都道府県において新型コロナウイルスウィルス感染者ゼロを誇っていた。若者の中には感染者0の県が7県あったことから「神セブンだ」と空気を叩くものもいた。事実、政府の専門家会議も大規模イベントの開催には慎重な対応を求めたものの、感染が確認されていない地域では学校

での活動を行ってよいとする見解を示していた。数日後、感染者が本県八戸で確認されたがそれでもまだ対岸の火事のような気がしていた。空気が変わったのは、弘前さくらまつりの中止、続いて新型コロナウイルスによる肺炎でタレント志村けん氏の死去だった。三密(密接・密集・密閉)防止が叫ばれ、県内においても十名を超える会議に全て自粛要請が出された。本来であれば各種団体の新年度総会花

盛りの時である。当然、その波は当同窓会にも押し寄せた。新型コロナウイルスの終息には時間がかかると思われる。加えて移動や宿泊による感染リスクも大きく、会員の安全を最優先に判断したもので、役員一同断腸の思いの決定だった。

この困難を「無限の可能」で乗り越え来年こそ「全校一体一家族」の精神で、懐かしい顔を肴に総会・懇親会で大いに盛り上がるうちはありませんか。



昨年度 関東支部懇親会



昨年度 中京懇親会



昨年度 本部総会

県教委が 統合校名案 五所川原工科高校



「今までもさつとこれからも」
同窓会長(M3) 山回 孝夫

「出会い」わずかな言葉の中になんと快い響き：それが喜びや安らぎとなる時、確かな出会いを感じる！



平成二十四年十一月十日みんで祝った創立五十周年、阿部廣悦第四代同窓会長の後を受け、会長としてあつという間に八年が過ぎた。その間蒼空館の竣工記念事業等も終わり、順調に推移して来たかに見えたが、平成二十九年四月二十六日突然の学校統合問題。五所川原工業高校がどうなるのか、同窓会としてどう対処するのか、当時の三上浩校長始め関係者とも相談し、他校を考える時、慎重に、前に出ず、との思いであった。

環で、令和二年度に開校する名称案が県教育委員会定例会で決定した。西北地区は金木、板柳、鶴田、五所川原工業の四校を統合し「五所川原工科高校」とした。

六月定例会議にて正式決定になり、統合校は現在の五所川原工業の校舎を使う。

各統合校の関係者でつくる開設備委員会は令和元年度「五所川原工科」「五所川原志学館」「五所川原実業」「五所川原南」「津軽中央」の五案に絞り、県教委に報告していた。

県教委は定例会で、西北地区の校名案は、地名と専門学科で構成された校名がこれまでも県民に親しまれており、普通科と工業科を併置し新しい高校としてスタートする中で、「工」を冠することで工業科の設置が明確に分かると説明した。

募集定員は四学科五学級(普通科二学級、機械科一学級、電子機械科一学級、電気科一学級)の百七十五名となった。

翌平成三十年六月に前理事長が辞職し、阿部廣悦前同窓会長に後援会理事長就任をお願いし、母校のために快く受諾していただいた。

六月三日、県立高校再編の一

振り返ると、現実問題これからは板柳・鶴田・金木地区に高校が存在しなくなる。関係者との協議、長くも短い時間、主張すべいかどうか幸山校長と阿部理事長、想像出来ない程大変な場面の連続、ご苦労様でした。

(昭和37年11月21日決定・昭和38年4月8日制定) 校章



「(校章は)一番下に円板を、その上に工の字をかぶせ、更にその上に高をおいたものである。円板は実は球であって人間形成の基盤を意味するものであり、工の字の上下にあらわれているのがそれである。工の字は勿論工業の工であるが、左右の端はナタで切断したように鋭くなっている。これは学問技術のきびしさ、するどさを表現するものであり、高は高等学校の意味である。ここに、五所川原も津軽も青森県もいれなかったのは、小さな殻にとじこもらずに世界を動かす人材になれと念じたからである。」 (平成6年発行 開校の礎より転載)

最後に
五所川原工業高校に入学してよかった。自分が自分らしく活かされてきてよかった。自分が自分らしくいられたのもあなたに逢えたから。そして五所川原工業高校の同窓生であったから……

「五工高 近況報告」

校長 幸山 勉



同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し格段のご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症パンデミックが囁かれる中、五所川原工業高校の最後の卒業生（第五八回生）となる一四〇名の新入生を加えて、全校生徒三九七名でスタートいたしました。新年度が始まり二週間後に一斉臨時休業となりましたが、県教育委員会からの指示のもと、できる限りの感染症対策を講じて、ゴールデンウィーク明けの五月七日から学校を再開し、これまで順調に経過しております。

全国に広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、運動部の春季大会と高校総体、夏の甲子園予選も中止となり、東北大会や全国大会を目指して練習を重ねてきた生徒たちは少しトーンダウンした様子も見られました。しかし、現在はいくつかの部活動が高校総体や甲子園予選の代替として開催される夏季大会に向けて頑張っています。夏季大会の結果は、学校ホームページからお知らせしたいと思います。

今、世界はコロナ禍の中で

混乱しています。私たち一人ひとりに求められていることは、専門家が発信する正確な情報をキヤッチして分析し、社会の一員として責任ある行動をとることです。学校は、どのような社会情勢においても物事の本質を見抜き、人としての存在意義や価値を見出せる力、気づき発見できる底力を育てていきたいと考えています。

さて、令和二年三月一日、令和元年度卒業証書授与式を挙行いたしました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、国から全国一斉休業の要請が出され、これを受けて本県においても三月三日から一斉臨時休業とすることが示されるなど、まさに不透明・不測の事態の中で式の挙行となりました。

式では、「人とのつながり」同窓同期のネットワークを大切にし、しっかりと前を見据えて、自分の選んだ道を堂々と歩んでほしいと饒の言葉を贈りました。卒業生の代表が学校生活や部活動の思い出を語り、「学校での学びは、五所川原工業高校の卒業生として胸を張って社会へ出るための愛情だと強く実感した。」と感謝の意を述べる答辞に、年を重ねると涙腺は緩くなるものだとつくづく感じました。

第五五回生として巣立った百三十八名の所在は、就職・進学を合わせて県内六〇名、東北二二名、関東四四名、中京・関西一〇名、北海道二名、鹿児島一名、北は北海道から南は九州・鹿児島まで全国各地に渡ります。例年であれば、同窓会本部・各支部総会の席上で、会員の皆様と新卒者を激励する機会をいただいておりますが、今年はそのも叶わず、とても残念に思っております。会員の皆様と新卒者とのつながりをもち、同窓の絆が深まることを願っております。これで卒業生総数は二、九〇四名となりました。

学校統合について、六月三日に統合校の名称案を「青森県立五所川原工科高等学校」に決定したと報道がありました。県教育委員会は、市町村名と専門学科名を組み合わせた校名が県民から広く親しまれていること、「工」を付けることで工業科の設置が明確に分かることなどを考慮し、五所川原工科に決めたとのことです。翌日の東奥日報の記事には「地元から高校がなくなる人の心情を考えると素直に喜べないが、統合校は工業系の学科の生徒が最も多い。落ち着くところに落ち着いたという印象」という統合対象校の同窓生に配慮する山口同窓会長のコメントが掲載され

ました。統合校は、普通科二

ました。統合校は、普通科二

級、機械科、電子機械科、電気科が各一学級の五学級でスタートします。五所川原工業高校の伝統は、五所川原工科高校の機械科・電子機械科・電気科に引き継がれます。学校には、四月から統合校の開設準備室が設置されています。開設準備室では、統合校の教育方針やカリキュラム、校歌、制服、部活動の設置など、昨年の開設準備委員会の報告を受けて検討し準備を進めています。これまでに、本校の校歌の一節にある「誠実に第一の校訓とし、創設以来受け継いできた『無限の可能性を学校標語とすること、五所川原工業高校にある部活動をすべて統合校へ引き継ぐこと』などを決めていきます。

結びに、五所川原工業高校は、生徒一人ひとりが生き生きと学び活動できる素晴らしい学習環境です。開校する五所川原工科高校においても何ら変わることもなく、この環境は引き継がれていくと思っております。



「新年度を迎えて」

教頭 藤田 明彦

同窓会の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動に対して多大なるご支援とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

新年度を迎えて既に二か月ほどになりますが、昨年末から世界的規模で感染拡大を続けている新型コロナウイルスの影響により、日本全国に発令された緊急事態宣言にもなない、不要不急の外出を控える自粛生活を余儀なくされ、感染予防のための制約の日々を過ごして参りました。学校教育活動においても、様々な儀式や学校行事等の縮小・中止、度重なる臨時休業、部活動においては県高校総体や東北大会・全国大会の中止等、未曾有の出来事が次々と起こっています。この異常事態が一日も早く収束し、安全・安心で平穏な学校生活が訪れることを心より願うばかりです。

このような厳しい状況の中、本校は四月七日の新任式・入学式から新年度をスタートしたものの、県教育委員会からの通知により四月二十日から五月六日までの約三週間を臨時休業としました。休業中に二日間の出校日を設け五月七

日から学校を再開しましたが、

日から学校を再開しましたが、

活動を終えることができるよ

うに、顧問の先生方のきめ細

活動を終えることができるよ

に、顧問の先生方のきめ細

かに指導をお願いしております。

に、顧問の先生方のきめ細

かに指導をお願いしております。

す。また、昨年度の県高校総



令和元年度 五工高同窓会決算報告

(自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)

△: 収入額が予算額と比較して減の場合

<収入の部>

Table with 5 columns: 項, 目, 令和元年度 予算額, 令和元年度 収入額, 増 減額, 備考. Rows include 1 会費, 2 繰越金, 3 雑収入, and 合計.

<支出の部>

Table with 5 columns: 項, 目, 令和元年度 予算額, 令和元年度 支出額, 増 減額, 備考. Rows include 1 活動費, 2 会報費, 3 慶弔費, 4 予備費, and 合計.

(収入の部) 1,505,101円 (支出の部) 1,002,855円 (残額) 502,246円 ※R2年度に繰越

令和2年度 五工高同窓会 予算案

(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

△: 収入額が予算額と比較して減の場合

<収入の部>

Table with 5 columns: 項, 目, 令和2年 予算額, 令和元年 予算額, 増 減額, 備考. Rows include 1 会費, 2 繰越金, 3 雑収入, and 合計.

<支出の部>

Table with 5 columns: 項, 目, 令和2年 予算額, 令和元年 予算額, 増 減額, 備考. Rows include 1 活動費, 2 広報費, 3 慶弔費, 4 予備費, and 合計.

(収入の部) 1,519,746円 (支出の部) 1,519,746円 (残額) 0円

関東支部役員・運営委員

Table listing members of the Kanto Branch, including roles like 顧問, 監事, 幹事, and 支部長.

令和2年度本部役員

Table listing members of the Main Office for the 2nd year of Reiwa, including roles like 顧問, 理事, 監事, and 事務局長.

中京支部役員

Table listing members of the Chūkyō Branch, including 支部長 and 事務局長.

青森支部役員

Table listing members of the Aomori Branch, including 支部長 and 事務局.

Table showing cumulative graduation statistics (卒業生累計) by gender and department.

令和元年度 五工高同窓会特別会計決算書

(自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)

Table for the Special Accounting Statement, showing income and expenses for the Reiwa 1 fiscal year.

Table for the Special Accounting Statement, showing income and expenses for the Reiwa 2 fiscal year.

令和元年度特別会計残額(A-B) 2,513,082円 蒼空基金60万円定期 609,798円 特別会計総額 3,122,880円

令和元年度事業報告

- Timeline of events for the Reiwa 1 fiscal year, including graduation ceremonies, branch meetings, and sports events.

令和2年度 定期人事異動

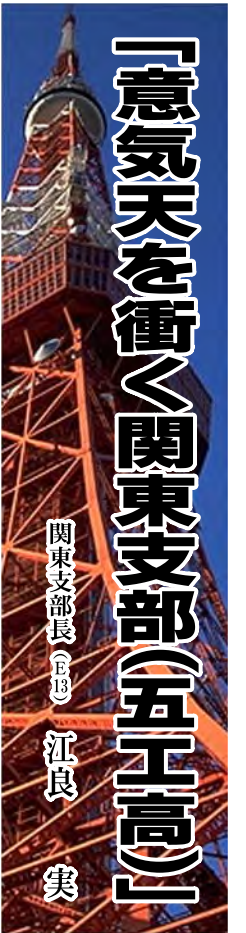
退任・離任された先生・職員

Table listing teachers and staff who have retired or left the organization.

赴任された先生・職員

Table listing teachers and staff who have been assigned to new positions.

- Additional information regarding the Reiwa 2 fiscal year, including branch meetings, sports events, and a notice about COVID-19 concerns.



関東支部長(EB) 江良 実

五工高同窓会の皆様、本年もよろしくお願い致します。年の明けた1月5日(日)、

第72回春高バレー応援隊を結成して試合地の武蔵野の森に出陣して母校バレーボール部の頑張る姿にエールを送りました。残念ながら僅差で敗退してしまいました。応援隊が一体となりコートで活躍する選手みんなに声援を送る事が出来て感無量です。これをバネにもっと練習して強いチームになってもう応援隊も関東支部の恒例行事の一つとして定着しています。母校後輩たちが試合で頑張っている姿を見ていると鳥肌が立ち、時には感動を抑えきれずに涙が出たりともうい歳(私事で、すが2月で還暦を迎えました)になりました。1月末に中国を中心、世界中に広がりがつつある新型コロナウイルス感染症の感染情報が聞こえてきて間もな

くしてからと云うもの国内外の感染者数が急激に増え、3月時点では感染者の増加が加速していつ終息するのかが見通せない状況が続いて、東京オリンピック・パラリンピックの開催も危ぶまれているなか、3月24日には2021年に延期することに決まりました。世界経済にも甚大な影響が出ることは間違いありません。このような状況は世界中の人々は誰しもが少しでも早い終息を願うばかりでしょう。

案内で周知させていただき、現時点では例年通り開催出来ることを願うばかりです。

全国的に大型イベントなどは軒並み自粛・延期もしくは中止を余儀なくされるなか、6月28日(日)に第54回新入支部員歓迎会、関東支部総会ならびに親睦会を開催予定しています。現段階では予定通り開催する予定ですが社会の動向などを学校、本部と情報共有し今後の役員会での検討結果をもって支部員の皆様には、例年5月中旬に郵送している支部会報・総会等開催

と紙面にてご披露いたします。改めて同窓生の方々関係各位の募金協力を御礼申し上げます。平成から令和に移行し、少子化による母校の学校統廃合、新型コロナウイルス感染拡大など前途多難の問題解決に取って校歌のフレーズ「白嗺々の津軽野に岩木おろしよ吹かば吹け」高らかに謳おうではないか。在校生の活躍に賞賛の拍手を送りつつ、同窓生のご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

「回想」

M6回卒 秋村文雄

拝啓 O.B、O.Gの皆さん達者でお過ごしでしょうか。小生は、6年前に母校の教職生活に終止符を打ち、悠々自適の生活いや、本当は墮落な日々を過ごしています。

現役の頃は、剣道部顧問として有終の美とはいきませんでしたが、武道を通じて得難い経験をさせていただきました。また、

学年主任・進路指導・生徒指導・渉外などの部署で苦勞もありましたが、職場のかがいたいたえにより乗り越えることができました。また、退職時は50周年記念事業に係わって、阿部廣悦前会長、現山口孝夫会長、並びに関係各位の献身的な募金活動(蒼空館新築)に携えることで、生徒会館完成にこぎ着けることができました。加えて、基金の不足分を当時後援会理事長(平山誠敏前五所川原市長)の並々ならぬ後押しがあったればこそ

敬具

同窓会会報基金

ご協力ありがとうございました。

同窓会会報の継続的な発行や事業活動の充実を図るために昨年度会員の皆様方をお願いいたしました会報基金が25名の方々にご協力をいただき総額10万6千円となりました。厚く御礼申し上げます。次に令和元年度基金協力者各位のご芳名・科名を掲載し、お礼に替えさせていただきます。

1万円	M3	山口 孝夫	旧職員	田中 功
M35	M6	福士加代子	M17	須藤 充康
M1	M6	加藤 勝逸	旧職員	下山 清栄
M3	M6	成田 栄一	M6	長内 重昭
5千円	M3	山田 善治	2千円	須藤 修
T13	T27	三浦すみれ	旧職員	岸 修
M27	M27	原田 典明	1千円	齊藤 昇
M3	E31	小野 真嗣	M4	山中 健司
E3	M12	成田 裕一	E31	保村 勝之
3千円	M12	月永 明二	M12	山田 勝幸
M6	M1	前田太一郎	M1	山田 勝明
E4	M31	白戸 幸男	M31	山田 勝幸

※同額掲載順につきましては到着順となっております。お一人で、複数回募金頂いた方は、その都度、掲載しております。

令和元年度 第55回生 同窓会入会式

令和2年2月28日、第55回同窓会入会式が本校第一体育館において行われ、138名が新たな同窓生となりました。本部からは、小野副会長、鈴木副会長の2名の役員が参加されました。鈴木副会長の式辞では、「本日同窓会に入会される138名の皆さんを迎え、同窓会会員は12,904名となりました。今日は同窓会関東支部発足に関するエピソードを紹介したいと思

部同窓会を開催することができました。このように絆があれば道は開けるといふことを当時の支部長は熱く語ってくれたそうです。今、学校を巣立つ皆さんの周りやこれから赴く先にも沢山の同窓生がいます。先輩を頼って甘えてください。本日は同窓会入会おめでとうございました。」と述べられました。



幸山勉先生の祝辞では、「本校の同窓会は、歴史と伝統を誇る同窓会です。進化する人、本校で学んだ知識と技術を活かして就職する人、地元や関東・中京などそれぞれの道となりますが、五所川原工業高校の卒業生として誇りを持ち、地域や日本を支える人間になってほしいと思います。6・7月は各支部で新卒者激励会と同窓会が開催されま



添えもあり無事に第一回関東支

す。是非参加し元氣な姿を見せてください。」と述べられました。記念品贈呈では、鈴木潤副会長(M14)より卒業証書用ファイルを生徒を代表して藤田瑠宇君(電気科)へ渡されました。入会の言葉では、小島聖生君(電子機械科)が「本日は、私たち新同窓会員を歓迎していただき、有り難うございます。また、会長、校長先生から、温かい激励のお言葉をいただき、心より感謝申し上げます。これからは、社会人として自立し、社会に貢献できる人材になるよう努力します。そして、全校一休一休家族を校風とする五所川原工業高校の同窓会員として、諸先輩方と共に、会員相互の親睦を深め、立派な会員になり、母校を支援いたします。」と述べました。参加された役員2名と職員同窓生13名を紹介し入会式を終りました。

蒼空基金について

現在の同窓会運営の資金は、在校生からの会費及び会報基金による援助で賄われています。同窓会の事業活動の充実をはかるために、同窓会財務事情を考慮頂き基金の協力を宜しく願っています。(振込用紙に必ず回生をご記入下さるようお願いいたします。)

(連絡先)

青森県立五所川原工業高等学校同窓会事務局 総務 中村 司 (E15) Tel:0173-35-3444